

タイ王国でのガレージ・ライフを スタートしたチャヤニン氏に 建築家が訪問した。

タイ・バンコク チャヤニン邸

GarageLife#49において紹介をしたチャヤニンさんのガレージ。そのスケールは大きなもので、2013年春に改めてガレージに編集長・石原と建築デザイナー・加藤伯政氏、そして長谷川氏が訪問。細かなディテールを確認してきたので改めて紹介をしたい。

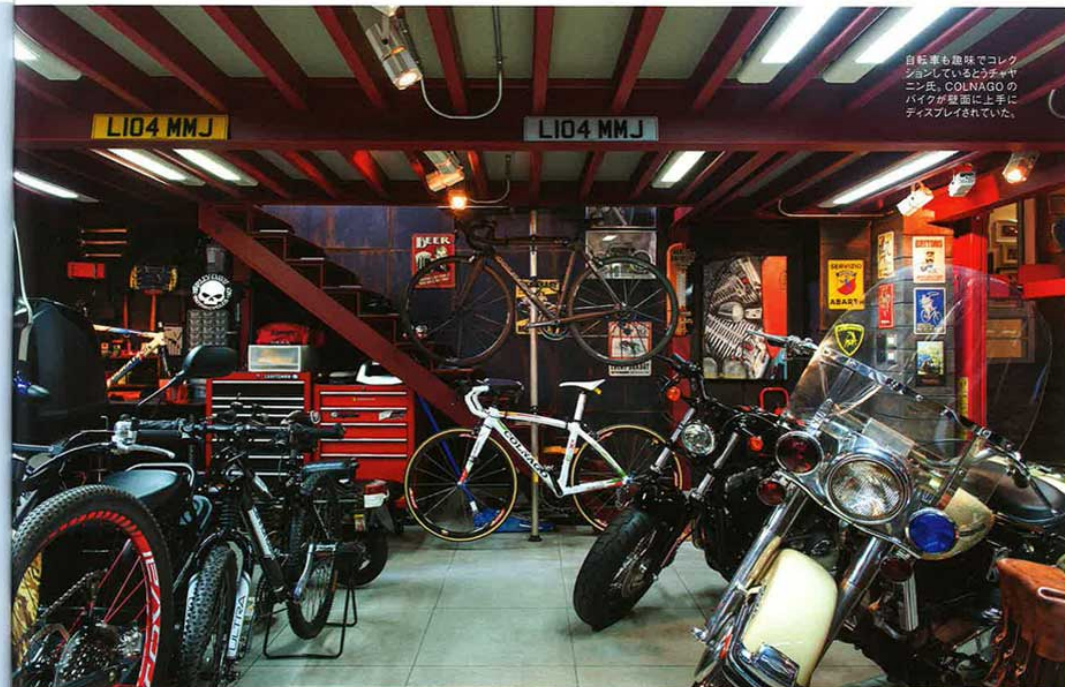
photo/Mr. tarjet Chantsakiet
text/Jun-ISHIHARA (石原 淳)

ガレージを訪問したことを記念して2人で記念撮影。リフトはドイツから輸入、フェラーリレッドでペイントした。



このガレージをはじめて見た方にも分かるように概要を紹介しておこう。チャヤニン氏は「シンハー・コーポレーション」創設者の4代目。12歳のころからクルマに興味を持ち始め、イギリスの留学時にボルシェと出会い、911の魅力に取りつかれたという。その後、タイに戻りモータースポーツに参加するという経歴を持つ。2013年春、編集長・石原、オフィシャルディーラー「レジェンダリーホーム」加藤氏、「EGWAY OUT」の長谷川代表の3人で氏のガレージに訪れた。なぜなら日本で販売実績のある排気ダクトシステムに興味を持っているからだ。

大きな門扉に閉ざされた高級住宅街にある彼の邸宅。セキュリティがしっかりとしていてなかがどうなっているのかは不明だったが、門をくぐり庭に入る



自転車も趣味でコレクションしているというチャヤニン氏。COLNAGOのバイクが数面に上手にディスプレイされていた。



落ち着いた雰囲気の中二層の趣味のスペース。日本でいう茶室、トーンを統一させることで雰囲気を重視。コレクションを収納するスペースも確保している。

from GarageLife
OVERSEAS
海の向こうのガレージライフ



タイ王国では8台しかないランボルギーニディアブロを保管するスペース。1年かけて氏が自らレストアしたという愛車。



加藤氏が気に入っていたのが、エイジングの手法。世界どこでも通用する技法に関心し、チェックをしていた。



蛍光灯とスポットライトを使い分けて、クルマにスポットをあてていた。配管まできれいにディテールリングされている。

P PLANNING DATA
 所在地 ● タイ/バンコク
 家主 ● チャヤニン氏
 構造 ● 木造、一部鉄筋
 愛車 ● 1992年式ランボルギーニディアブロ
 フェラーリ335ベルリネッタ
 1999年ボルシェ・カララS 他



フラットエンジンを搭載した、1942年式戦前のハーレーがレストアから上がったばかり。サイドカーがついているモデルは世界でも珍しい。



左/ミニクーバーのデッドストックパーツを所有するチャヤニン氏。イギリスに留学経験もあることから好きなクルマの1台だ。
 右/市販されている細をエイジングペイントしているのが部屋やガレージにある組、ペイントなので腐食が進むことはない。

自分で整備書を調べてレストアしたイエローのディアブロを所有。

とそのスケールの大きさに3人は驚いた。まるで大使館のような立派な造りは、日本でいう輸入住宅のモダンスタイルの木造2階建て。クラシカルモダンなデザインでありながらも、リビングから行き来できる位置にビルトインガレージがあるという設計。

ガレージは専用設計で、日本のGarageLifeの雑誌を建築家に見せながら説明したという。タイルが貼られているフロアに、リフトが設置され好きなボルシェが3台、フェラーリ348、そしてディアブロがガレージに収納されているが所有しているクルマはクルマのディテールショップやファクトリー、そして会社にも保管されているようだ。そして建築デザイナー・加藤氏と細かなディテールをチェックしたところエイジング加工している絶妙なバランスがいいという。

壁面に採用された腐食したような鉄のパネルはあらかじめエイジングされ、わざとガレージに雰囲気を出すために選んだという。木目とのバランスもとり、床面を明るい色を採用することで重たくなりにくいように意識したポイント。ガレージの奥の階段を上がる



長谷川氏と排気ガス【排気システム】の設置について打ち合わせ。距離、そして胴体によって配管をどうするかがキモとなる。



壁面の右側に描かれているのは主が経年するビートル。細かなキックが利いていることが分かる。



と、いわゆる個室が登場する。日本でいう茶室のような空間。天井高がやや低いが、あえて座って楽しむようになっていて落ち着ける空間。ガラスのショーケースをいくつも掛け、採光を上げる工夫とコレクションが展示できるようにしていた。

そして排気ダクトシステムを導入するために細かな壁の仕様、そして躯体を確認してどこに配管を通すかを確認したのは「セーフティライフ」の長谷川さん。そしてこの秋、めでたく導入されることになったという。改めて、海外のガレージ訪問ではあるが細かなディテールを研究して、実践しているところが非常に興味深かったと感じた日本から訪問した3人である。みんなでクルマの話、住宅事情、趣味の話で深夜まで盛り上がり情報交換ができたことは非常に大きな財産となった。

from **GarageLife**
OVERSEAS
 海の向こうのガレージライフ